

令和５年度 第１回 平野区教育会議 会議録

日時：令和５年８月１日（火曜日）午後７時００分

場所：平野区役所 １階 研修室

出席者：【委員】

稲垣委員 橋本委員 眞田委員 箱谷委員

福井委員 大森委員

【オブザーバー】

広岡 喜連北小学校校長 谷塚 加美中学校校長

堂前 加美北幼稚園園長

【平野区】

武市 区長 堀川 子育て支援担当課長 樋口 政策推進課長

星野 政策推進課長代理 上原 担当係長 塚本

議題：平野区長・平野区担当教育次長あいさつ

意見交換

- ・読書ノートを中心とする読書運動について
- ・民間事業者を活用した課外学習支援事業について
- ・その他の平野区教育事業について
- ・第２期「学校園における働き方改革推進プラン」
- ・新しい取り組みについて

その他 事務連絡

- ・委員改選

○樋口政策推進課長

定刻が参りましたので、ただいまから令和5年度の第1回平野区教育会議を開催させていただきます。

本日は、ご多用中にもかかわらず、夜間の時間帯にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の司会進行を務めさせていただきます政策推進課の樋口と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、会議開催に先立ちまして、平野区長よりご挨拶申し上げます。

○武市区長

どうも皆様、こんばんは。平野区長の武市でございます。

コロナ感染症も2類から5類になりまして、まだ感染自体は発生しておりますので、完全に終わったわけではありませんけれども、今年の夏は地域のお祭りなどもほぼほぼ戻ってきた感がございまして、私も区長になって3年目にして、ようやく盆踊りに参加できるのではないかという夏になっております。

この間、学校現場や幼稚園、保育所などでは、こどもさんの健康状態などに苦労なされて、いろいろ工夫をしながら進めていただいたということに本当に感謝したいと思います。

平野区では、引き続き読書運動など、これまで取り組んできた取組を進めながら、また、世代を通じたつながりであるとか、区役所の中でも、それぞれの部署のつながりなどで、これからも様々な課題に取り組んでまいりたいと考えております。

本日は、大変貴重なお時間でもございますので、忌憚のないご意見をいただきながら、これからの教育施策に生かしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○樋口政策推進課長

続きまして、出席者の紹介とさせていただきますが、既に昨年度から引き続きご就

任いただいているメンバーですので、資料２ページにあります座席表をもちまして、出席者の紹介とさせていただきます。

なお、今年度のオブザーバーとして、喜連北小学校の広岡校長先生、加美中学校の谷塚校長先生、加美北幼稚園、堂前園長先生にご参加いただいております。ありがとうございます。

教育会議につきましては、平野区教育会議開催要綱に基づきまして、原則公開の会議となっております。一般の方の傍聴や報道機関の取材も可能となっております。なお、本日は、報道機関の取材はございません。本日、傍聴者については１名でございます。また、本日の会議内容は、区役所ホームページ等で公開する必要があることから、会議の録音を取らせていただいております。

それでは、以降の議事進行につきましては、大森議長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○大森議長

それでは、議長を務めさせていただきます大森です。よろしくお願いいたします。

お配りされているレジュメに沿って、区役所のほうから資料の説明をお願いしたいと思います。

○上原担当係長

皆様、改めまして、こんばんは。平野区役所の上原です。

読書運動から、その他の平野区教育事業までの３項目を簡単に説明させていただきます。

資料の３ページをご覧ください。平野区の読書運動につきましては、平成２８年度から事業構築を行い、平成２９年度に小学校から実施いたしました。区役所が地域図書館、公立小学校と共催し、１万人近い小学校の全児童に読書ノートを配付して読書運動を行うのは日本で初めての試みで、当時、産経新聞や朝日新聞等にも掲載されました。翌年度には、市立幼稚園、市立中学校にも対象を拡大しました。なお、中学校

の読書ノートにつきましては、令和元年度から大阪平野ロータリークラブ様に作成いただき、区役所に寄贈いただく形で行っております。

また、平成28年10月の教育会議での、本、特に絵本は高価で購入が難しい家庭も多いので、区で気軽に本を貸出しできる制度をつくるべきとのご意見から、平成29年1月から区役所で寄贈を受けた図書を、手続無し、無期限で貸し出す「ひらちゃん図書の自由貸出し」を行っております。寄贈された本は、令和5年7月時点で7,410冊となっております。

次に、えほん展の開催でございます。これは、平野区政会議こども教育グループでの、平野図書館が区の北側に位置しているため、瓜破や長吉のこども、特に幼児の居る家庭は図書館に行くことが難しく、そのためえほん展を開催してほしいとのご要望を受けまして、平成30年度から長吉と瓜破でえほん展を開催しております。長吉につきましては、今年度は、先週の金曜日に開催いたしました。

その次の、図書ボランティア表彰制度ですが、こちらは平成30年10月の学校協議会委員と区長との意見交換会の中で、読書ノートの成果は各校の図書ボランティアの助力が大きいため、その感謝を込めた表彰制度を設けるべきとのご意見から、平成31年1月から始めた表彰制度でございます。

さらに、平成28年度の教育会議委員から、「児童生徒に読書の大切さを伝えることは学校で可能だが、保護者に伝えることは難しい。そこで区が広報誌等で区民に幅広く読書の大切さを伝えるべき」とのご意見から、平成29年4月以降、「広報ひらの」などで定期的に読書運動の大切さを紹介するとともに、令和4年8月以降は、住みます芸人が紹介するオススメ図書を毎月掲載しております。

このように、平野区では読書ノートを中心とした読書運動を平成28年度以降続けてまいりました。

4ページ、前回と同じ資料になりますが、昨年度の表彰率につきましては24.9%と、4人に1人が表彰されました。しかしながら、前回稲垣委員様からあ

りましたように、「読書を好きでない」というこどもが多いとのアンケート結果が、地域で出ているのご指摘がございました。「読書が楽しい」と一人でも多くのこどもに答えていただけるように、平野区としても努力してまいりますので、アイデア等ございましたらお聞かせいただきたくお願い申し上げます。

ここで、皆様にお配りしております、おさんぽ絵本について、区長から説明させていただきます。

○武市区長

お手元にリーフレットをお配りさせていただきました。これは、区役所とは全く関係なく、平野区内の加美地域で、子育て期間中のお母さんたちが、ほっと一息つけるカフェをやっておられる方が思いつかれて、今、展開をされているものです。

区役所も、小学校、中学校、幼稚園で読書運動を行っていますが、本当のところは、もっと早い、赤ちゃんの時期から、お母さんやお父さんと絵本に親しんでもらうというのが大きいと思っております。これは、幾つかのカフェやこどもさんを連れて立ち寄れるような場所に絵本を置いて、どこで借りて、どこで返しても良いと言う本の貸し出し制度です。貸出期間もどれだけ長い間、借りても構いませんという、比較的自由なやり方で、絵本にお散歩をさせてあげてくださいねということで、同じところに返しに来てでもいいのですが、できれば借りた絵本を全然違うお店に行ったときに、そこで返すという仕組みです。

先日、この活動のご紹介を受けて、私たちの読書運動と相通ずるところがあると思いましたので、ご紹介をさせていただきました。大阪市でも、こども青少年局でブックスタートという事業をやっており、健診に来られたこどもさんにチケットを配付して、そのチケットを持って、市内の子ども・子育てプラザとか、いろんなところで、こどもさんに絵本を渡しております。平野区でもホームページなどでお知らせをしていますので、それで予約をしていただいて、そのチケットを持って行って、そのときに読み聞かせの会とかもしておられて、そこで少し時間を過ごしていただいて、絵本

を持って帰っていってもらい、家庭でまた読んでもらうということをしております。
配らせていただいたこれは全くの民間の方が、ご自分たちでクラウドファンディングとか、寄附を募ってやっておられる分ではありますけれども、そうやって親子で絵本に親しむというようなことを広げていきたいというような思いを持った方が、平野区には私自身が思っている以上に多いのかもしれないなと感じまして、ご紹介をさせていただこうと思って、置かせていただきました。

区役所でも、乳幼児健診の会場などにこのリーフレットを置かせていただいて、待ち時間が結構ございますので、お母さん方が手に取られて、この裏のQRコードで、どこに置いてあるのかを確認されておられます。ご紹介でございました。

○上原担当係長

それでは、続きまして、ご説明させていただきます。

前回、福井委員からご質問のございました、学校図書館での障がいをお持ちの児童への対応につきまして回答いたします。5ページをご覧ください。まず、学校図書館の現状ですが、平成29年当時は、市基準の7,000冊に達していない学校も多々あったのですが、現在は、ほぼ全校で7,000冊以上になっております。毎年の予算が大体40から60万円程度で、冊数でいきますと、200冊から500冊ぐらい。以前、市の基準に達していない学校につきましては、年間200万円の予算がつき、年間1,000冊以上購入して整備いたしました。

障がい者用の本に関しては、②にございますように、LLブック、いわゆるレットラストですね、レットラストブック10冊程度が多いです。また、学校図書館には置いていないけれど、特別支援学級の教室にある場合も多いとのことです。

障がい者用の本の購入の基本は、障がいを持つ児童が在籍している期間に、その障がいに対応する本を購入しているケースが多くあります。視覚障がいの児童が在籍していたことで、点字本や音声本を50冊近く持つ学校もございます。

また、6ページから9ページの資料にございますように、大阪市立中央図書館でも、

障がい者サービスも行っており、これらは学校を通じても利用することができますし、一般の方が直接利用することもできるとお聞きしております。福井委員のお話にありましたD A I S Yなどのソフトについても貸出しを行っており、一度ご確認いただければと思います。

続きまして、2項目め「民間事業者を活用した課外学習事業」について説明させていただきます。10ページをご覧ください。

平野区の民間事業者を活用しました課外学習支援事業につきましては、長吉西中学校で行っております「なかよし塾」と、夏期、冬期の短期間、区民センター等で行ってありました「ひら塾」がございます。「なかよし塾」は令和4年度以降、参加者数が急減しており、今年度も6名ということで、民間事業者並びに学校と運営方法について、検討を進めており、近隣の中学校も参加できるようにしたいと考えております。また、事業者とは3年契約になっており、令和6年度末の契約終了までは、人数が少ないまま、継続して行う可能性もございます。

②の「ひら塾」につきましては、令和2年度、3年度は感染症の拡大もあり休止しておりましたが、前回、3月にご説明しましたとおり、4年度は夏期、冬期とも実施いたしました。しかしながら、夏期は7月と8月の合計で14名、冬期は3名と非常に少なく、民間事業者の損益分岐点が20名以上の確保となっていることから、公募しても応じていただける事業者が現れない可能性が高く、今年度は取組方法の変更も含め検討しております。なお、コロナ禍前の令和元年度は、夏期は合計で46名、冬期は25名の参加がありました。参加者、業者、学校などへの調査をしましたところ、バウチャーの上限1万円で受け入れていただける民間塾が増えたことで、ひら塾へのニーズが低くなったことが大きな原因とされています。また、区役所が無料でお貸しできる場所が区民センターや区役所に限られており、塾が少なく、ニーズの高い長吉地域では場所を確保できないことも原因の一つとなっております。

一方で、この4月からバウチャーの対象が中学生から小学5年生、6年生にも拡大

されました。小学生の場合、校区外に行くには、基本的に保護者の同伴を求めていますので、役所がどこかの学校や場所で集中的に塾を行うには、問題がございます。他区で、既に小学校2校で取り組んでいる例がありましたが、参加者が1名と3名で、業者からはこのままでは存続が難しいと言われているとお聞きしています。また、開催時間が17時半から18時半になり、教員には残業となり、働き方改革に逆行しているとの指摘もございました。そこで、オンライン授業などの活用を含めまして、来年度の開催方法を学校や事業者等と検討して進めてまいりたいと考えております。この点につきましても、ご意見、ご提案がございましたら、お聞かせいただきたくお願い申し上げます。

3項目め、11ページ、その他の平野区の教育事業でございます。前回、詳細にご説明しましたこともあり、今回は項目と内容を簡単に説明させていただいております。こちらにも改善点等ございましたら、ご意見をいただきますと助かります。よろしくお願いいたします。

私からの説明について以上です。「学校園における働き方改革推進プラン」につきましては、星野課長代理より説明させていただきます。

○星野政策推進課長代理

それでは、私のほうから5月に教育委員会で策定されました第2期の学校園における働き方改革推進プランについて、ご説明をさせていただきます。

次のページにA4横長で2ページにわたりまして資料をつけておりますので、そちらをご覧ください。

皆様ご承知のとおり、今、全国的に、教員の長時間勤務が問題となっております。本市においても同様でございます、教育委員会におきまして、令和元年に第1期のプランを策定して取り組んできたところでございます。その結果につきましては、この資料の1ページ目の3のところに、教員の時間外勤務の状況ということで、表がついております。こちらは月平均の時間外勤務を年度別に比較したものになります。平

成30年度と比較いたしまして、令和4年度は小学校、中学校、幼稚園のいずれにおきましても、時間外勤務が減少してきております。ただ、数字を見ていただきますと、まだまだ長時間勤務の状況というのは解消されておられません。そこで、今年度の5月に教育委員会のほうで第2期の改革推進プランが策定されまして、これまで以上に長時間勤務の解消に向けて取り組んでいくということになりました。

具体的な取組内容につきましては、2ページ目のほうに第2期プランにおける主な取組ということで記載されておりますので、またご覧いただければと思います。例えば学校に専門スタッフ等を配置したり、また欠席連絡等アプリですとか、あと、採点支援システムなどを導入することで、事務負担の軽減などに取り組んでいくということになっております。また、働き方改革につきまして、ご理解とご協力が得られるように情報発信にも努めていくということでございますので、今回私のほうから紹介させていただきました。

私からは以上でございます。

○大森議長

ただいま議案について説明していただきました。

順次ご意見、ご質問ある方がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

読書ノートと民間事業を活用した課外学習支援事業、その他の平野区教育事業について説明がありました。よろしいでしょうか。

○上原担当係長

福井委員、先ほどの説明で前回のご質問については、よろしいでしょうか。

○福井委員

はい。

○上原担当係長

D A I S Yについても資料に入れましたが、分かりましたでしょうか。

○福井委員

でも、まだちょっと足りないなと思います。

○上原担当係長

そうですか。

○福井委員

どこから言ったらいいかな。国会図書館のほうから音声教材をダウンロードできるっていうことも、一般の図書館司書の方とかにちょっと広めていただきたいなと思ひまして、そうすると、何ていうか、こどもが字が読めない、音声教材のほうで読書ができるっていうタイプのこどもさんにとってはそのほうが実績が出ているみたいでして、この間のLD学会でも、それを発表されていきました。ハリー・ポッターの分厚いのを音声教材で3日間で読み上げて、先生に読書の感想と、それから粗筋をぺらぺらしゃべれるようになったとか、すごく実績が上がっているみたいなのですね。やっぱり文字を読むっていうことが苦手なお子さんにとっての新しい読書の楽しみ方っていうのを、もうちょっと広めてあげてほしいなと思っています。それによって、タイプの子によっては、音声を聞きながら字を追いかけて、字の獲得ができたお子さんとかも出ているので、それによって、そのお子さんが、字が書けるようになるとか、読めるようになる字が増えるっていうことはすごく学習効果が上がると思いますので、学校もいろんなことにトライしていただけると、学習できる力をつけるお子さんが増えるのではと思っています。

あと、東大の先端系のほうでも、一般に出ている本を音声教材に変えるサービスを無料で行っている窓口もあります。お金はかけずに、ちょっと手間はかかりますけども、申請することによって、学びを得る機会を得られるこどもさんが増えることで、それによって、また結果が出ると、一人一人のお子さんの学びにつながっていくんじゃないかなと思っています。以上です。

○大森議長

ありがとうございました。

では、続いていかがでしょうか。

次、新しい取組についての説明はありますか。

○上原担当係長

区役所では、先ほどの説明のように様々な取組みを進めてまいりました。これにもっと新しい取組み、こういう取組みを加えたらより良いのではなどを、ご提案いただければと思っています。もちろん実現できるかどうかは予算の関係もあり保証できませんが、次年度以降、これから予算要求も始まりますので、参考にさせていただきたいと思いますので、ご提案のほど、よろしくお願いいたします。

○大森議長

新しい取組についての提案がありますかということですか。

○上原担当係長

そうです。新しい取組について、また、読書運動の改良版とか、発展版など。また、全く別の事業として、5月に平野ロータリークラブさんがされた、警察とタイアップした自転車の安全運転などを、区を挙げて取り組むとか、そういうのも含めて何かご提案ございましたらお聞かせいただければと思います。

○福井委員

いいですか。

○大森議長

はい。

○福井委員

静岡で「しずおかブックフェア」というのをやって、みんなの図書館って言って、民間ですけども、ボックスを1人お幾らで購入して、その人がみんなに読んでもらいたい本を提案するという活動です。大阪では、松虫のほうでされている団体もあります。立ち上げている民間の団体もお医者さんであったりとか、臨床心理士の方であっ

たりとか、本当に町のコミュニティーをつくろうと思ってやってらっしゃる方がいたりとかして、そこがまたこどもが集まったりとかお年寄りが集まったりとか、本を通じていろんなイベントを企画したりとかして、民間で活動されている方が全国に結構な数、最近増えてきていますので、そういうのが平野の町で始まったらいいかと思っています。本のやり取りに関して、図書館でもトラブルがあると聞きしているので、どの程度みんなルールを守ってやっていけるかという問題もありますが、面白い取組だと思っています。

○大森議長

ありがとうございます。

先ほど区長さんからもありましたが、これも関連しているんですね。本を通じてコミュニティーがつくれていけたらいいという、「しずおかブックフェア」の紹介をしていただきました。

他にもありますか。お願いいたします。

○箱谷副議長

いいですか。

私も読書のことですけれども、平野区ではひらちゃん読書ノートやひらちゃん図書貸出しなどの取組をしていただいて、それはすごい良いことだと思います。それを発展させるために、ビブリオバトル、区内でも取り組んでいる学校があると聞いていますが、ビブリオバトルを区全体で行うような取り組みを何かできれば良いなと思います。

そして、私、中学校で特別支援のサポーターさせていただいていますが、特別支援サポーターの配置時間の追加をお願いしたいです。現在、週30時間の配当をいただいているとお聞きしていますが、指導の必要な生徒もたくさんいるので、もうちょっと時間をいただけたら、でも、時間をいただいても、人材がないので、時間の追加と人材もご紹介していただけたらなと思いますので、よろしくお願いします。

もう一つ、以前にも発言させてもらいましたが、特別教室のクーラー、もう本当に暑いので。教室にはクーラーをつけて、特別教室、理科室、図工室、家庭科室、同じ勉強するのに、そういうところにクーラーがないのは何かちょっと違うのではないかと思います。本当に暑くて、勉強できる状態ではないんです、特に西側の陽が当たる教室なんかは。だから、もしできれば早くクーラーをつけていただきたいです。よろしくお願いします。

○大森議長

ビブリオバトルってどんなものなのですか？

○上原担当係長

生徒が、自分が紹介したい本を3分から4分ぐらいでまず説明します。この本のここがすばらしいから、ぜひ読んでいただきたいとか、この図鑑は珍しい蝶の綺麗な写真が載っていて目だけでも楽しめるなど、自分の好きな本を3分なり4分なりで皆さんに紹介していきます。何人かで順番に紹介したあとで、参加者が、読みたくなった本、興味を抱いた本を投票しまして、優勝者を決めます。

区内の一部の学校でも取り組んでおり、予選として、クラスの代表を数人選び、今度はその学年で代表者を数人選んで、その数人が学校の全児童に紹介して、優勝者を決めたりいたします。優勝者の本は学校図書館で優先的に購入されるなどの対応を取っている学校もあります。

この取り組みを、区役所が中心となって区全体で行えばとのご提案だと思います。もちろん、それぞれの学校で、ウェイトを置いている取り組みもあり、すべての学校に強制はできませんが、応じていただける学校を集めて、行えばとのご提案ですね。

○箱谷副議長

小学校で国語の時間に、何年生かはちょっと覚えていないのですが、教科書の中に、そういう自分の好きな本を紹介しようっていうのがあって、みんなの前で発表して、これがいいとかいうのがあるんで、そういうことを、みんなですればもっと本に興味

が持てるのではないかと思いました。

○大森議長

既にやっておられる小学校が幾つかあるのですか。

○箱谷副議長

幾つかあるって何か聞いたことがあるんですけど。

○上原担当係長

加美東と瓜破西と新平野西はもう既にされております。

○広岡校長

確かに、先ほど副議長がおっしゃったように、国語の教科書には確か高学年だと思
いますが、そういう教材があります。

○箱谷副議長

ありますよね。

○武市区長

私がちょうど3年前に平野へ寄せていただいたときに、もう既に、読書運動はその
時点で5年ぐらやっておられたので、ここ少しステップアップしても良いのではと。
最近話題のビブリオバトルは面白いらしいということを、区の教育担当の中で話をし
ました。当時の課長代理が平野図書館に行きまして、館長に、ビブリオバトルという
のを区長が言っていますが、それはどんなものでしょうかと聞いたら、それでは、実
際にビブリオバトルをやってみましょうと言って、平野図書館の館長さんがほかのメ
ンバーも集めて、その課長代理、突然引きずり込まれて、その場でビブリオバトルを
させられたそうです。公式にはルールが決まっていて、何分間でプレゼンテーショ
ンして、時間が来たら鐘が鳴ります。課長代理が経験してきてその話をあちこちの学校
で話をさせてもらいました。加美東小学校も今年度からでしたか。

○上原担当係長

加美東は昨年度から行っています。

○武市区長

昨年度から。

加美東小学校は、学校図書館を大規模に改修してすてきな図書館にしておられますので、そこを活用して何かやりたいということで取り組まれました。瓜破西小学校もされていて、区役所の教育担当も見に行かせてもらって、すごく面白かったとの報告を受けました。先生がおっしゃるには、小学生でも3分、4分のプレゼンテーションを全部覚えるのは難しいのですよね、好きな本とはいえ。それを完璧に頭に入れて、何回も練習をして、どういう言い方をしたら人に伝わるだろうかを考えながらしゃべって、みんなの前でプレゼンテーションをして、それをほかのこどもたちが聞いて、ああ、すごい面白そうな本やなって実感するみたいな、そのやり取りが大変面白かったということを聞きました。おそらく、中学生ぐらいになったらもっとレベルアップした、何かまさしくバトルな感じになるのかもしれないんですけど、小学生でもそういうふうに、好きな本の中身を伝える、ほかの人にも読んでもらいたいと思うような説明をするっていうのはすごくいいことだと思いましたので、それをさらに進めさせていただけたらなと思います。また、中央図書館で今、各学校に行っている学校司書の方たちの研修とかもやっていただいているので、そういう場でもご紹介いただけたらいいんじゃないかなと思ったりします。

○大森議長

ありがとうございます。とても詳しく説明していただいて。本の紹介をさらに盛り上げていくルール化、ゲームのようにするのですかね。

○武市区長

そうです。

○大森議長

そのことによってこどもが非常にプレゼンテーションの力も高めていく、とても良い取組だということで、それを区全体に広げてほしいということですかね。

○箱谷副議長

はい。

○大森議長

これは、学校の全体ですか、学年ですか。

○上原担当係長

学年で行っているところが多いと思います。加美東は、小学校５年生でした。瓜破西は、確か、高学年か低学年かもう少し分けて行っていたと思います。

○大森議長

一斉に全員、全校挙げてだと、それは。

○上原担当係長

いえ、全２２校でとなりますと、それぞれ頑張っているところが異なり、学校にもご迷惑になりますので強制はできません。応じていただける学校がございましたら、何校からでも良いので、始めることができればと思っております。

○大森議長

先生方もきっと、この取組の良さをもっと知られたら、広がるかなと思います。

○上原担当係長

働き方改革プランの説明をしたあとで、仕事を増やすような提案で、全く逆行しており、申し訳ないです。

○大森議長

続いて、箱谷さんから中学校の特別支援の時間の増加ですね、支援のする人の時間ですか。

○箱谷副議長

そうです。

○大森議長

それが現在３０時間、それをもっと増加してもらえませんかというご質問ですかね。

○箱谷副議長

学校に来られない生徒もたくさんいるんです。そういう子たちが来ても、先生が少ないから見られないとか、来ていない子だったら迎えに行っておあげるとか、小学校だったら割とそういうのもありますが、中学校では、あまりそういうことは出来ていません。だから、もうちょっと人手があれば、そういうこともできるんじゃないかなと思ひまして。

○大森議長

いわゆる支援員と呼ばれている人ですね。

○箱谷副議長

はい。先生の人数が足りないので、どうしても支援員さんが、私みたいな人が何人かいれば、そういうお手伝いもできるのかなと思ひました。

○武市区長

教育委員会事務局のほうで配置していただいている会計年度任用職員の方ですかね。

○谷塚校長

その方ではないです。本校も枠は25時間もらっていますが、人を見つからなくて、今使っているのは10時間です。

○武市区長

それは人がいないからですか。

○谷塚校長

いないです。教育委員会事務局の紹介を待っていてもらちが明かないので、母校の大学、教員目指している学生で探しています。常磐会学園大学にも去年は来ていただきました。学校で探して、1人学生が決まって、もう1人は他の業務で来ていただいている方が空いてる日があるからとお願いして来てもらって、やっとそれで10時間埋まりました。そんな状況で、もう全てがそんな感じです。

本校も不登校が多くて、去年よりも今年は大分改善しましたが、やはり人はたり

ません。元気アップさんもととても良く頑張ってくれて、読書運動もしてくれていますが、できれば地域の人材をもっと活用して、午前中の10時から11時とかの時間でも居てくれたら、不登校の生徒にちょっとでも門をくぐってほしいです。ここで読書しても良いし、自習しても良いし、ただ、この役割に教員を充てると、働き方改革等で難しいこともあるので、何とか地域の方をお願いできないかなと思います。

学力のほうでも課題はあるので、放課後の学習会で、サポーターさんに来てもらって、少しでも生徒が学習する、学習習慣が定着することが大事なので、地域や関係者とも相談をしていますが、どうしても、地域に人材が少なくて、区役所さんでも、人を集めていただきたいと思います。予算があっても、人がいないためにできていません。これは本校だけではなく、どこの学校でもほぼ同じです。

○武市区長

平野区でも「こども学力サポート事業」で、区のほうで予算をつけて、小学校に指導員さんを雇っていただくお金を渡しています。これも同様に、来てくれる学生がないとの声をあちこちからお聞きして、ここ何年間か常磐会学園大学に、どなたか学生さんいらっしゃらないでしょうかってお願いをして、何人か紹介いただいたりを繰り返している状況です。区役所の予算分もそうですし、教育委員会事務局でも、教育のサポーターもそうですけども、働き方改革のほうでスクールソーシャルワーカーをつけるっていうことになっておりますけれども、かなりの金額の予算がついたと聞いておりますが、人材が確保できず、平野区の配置が結局ゼロと、今の、4月の時点でゼロ。スクールソーシャルワーカーなどは、全国で取り合いになっていますので、4月に配属されないと、年度途中ではまず来ません。予算は取ったのですよね。教育委員会事務局がとても頑張って予算を取ったのですが、問題は人材で、そこが大変厳しい。誰でもできることでは確かにないので、誰でもいい訳ではないのですが、大変難しいですね。

○谷塚校長

人材が確保できているところが1つだけ中学校にあります。働き方改革の一環で、中学校の場合は部活動があり、部活動が6時半とか7時に終わってから翌日の準備をしますので、8時、9時になってしまい、どうしても月80時間、100時間超えたになります。そこで、部活動を地域の方という流れになっています。部活動指導員という形で、地域から人材を集めますが、この指導員の時給が大阪市は2,500円です。堺市は1,200円、八尾市は1,300円なので、倍ぐらい。だから、他市でやっていた、本校に来られている方も熊取から来られています、その金額だと、堺市を辞めて来てくれます。また、一般のバイト料よりも高いため、バイトを辞めても来ていただける。これだと人材は集まります。どうしても、その数字を人は見ますので。教育ですから金額だけの問題ではないのですが、正直に言って人が集まりませんので、背に腹は代えられないので、もう少し単価を上げて頂くなど、魅力を高めて頂ければと思います。

○箱谷副議長

すみません、その金額は、部活指導員に関してのみですか。

○谷塚校長

残念ながら部活指導員だけです。

○箱谷副議長

他も予算で単価が決められています。

○谷塚校長

そうです。学習サポーターは、1,000円ちょっとですので、それだと、「バイトの方が楽で収入も多い」ので、なかなか来ていただけません。部活動指導員だけは、大阪市だけが2,500円で、2時間で5,000円ですから、学生も喜んで来てくれます。大阪市の予算の問題もありますから、すべてに適用できないことは理解していますが、やはり人材確保に関して、単価の部分は影響が大きいと思います。

○福井委員

すみません。

○大森議長

どうぞ。

○福井委員

ちょっと話題が替わります。課外学習支援事業のことですが、放課後デイサービスの方たちが最近、塾に行けない障がいを持っている子たちの宿題を見ていると。本来、デイサービスでは療育をしなければいけないのに、宿題の時間を取ってくれと親に言われて、本来業務を削って15分ぐらいかけて宿題を見たりしている。非常に負担なので、学校の先生とその宿題に関して交渉をしますが、先生方も働き方改革で大変で、なかなかうまく話が進まないというお話を耳に挟みました。一般的なお子さん、発達の凸凹のないお子さんたちはこの事業にすっぽり入るけども、そうじゃないお子さんたちは、じゃあ、どうするのっていうのもあるかなってちょっと気になりました。

○大森議長

そのデイサービスは、区役所の管轄なのですか。

○福井委員

いえ、福祉のほうですね。福祉の、福祉サービスで、受給者証を持っているお子さんたちが利用できる施設です。

○武市区長

障害者手帳や受給者証の発行、その区分認定は区で行っております。1個1個の放課後デイサービスの各事業所、それぞれの事業所の中身までは、かなりの数がございますので、うちのほうで細かくまでは分からないのですが、もし、万が一、何かそこで不適切なことがあれば、福祉局に指導の部署がございます。

○福井委員

そうですね。

○武市区長

かなりの数が今、区内にもありますので、先日、福井さんから言っていた、家の近くでどんな事業所があるか探すのに地図があったほうが良いというお話で、確認しましたら、既にそういう地図は全国分がありました。そこで、区役所でも職場でその地図を使って、事業所をご紹介します。障がいを持ったこどもさんとかで割とよくあるのは、月火水木金、別々のところに、毎日違うところへ行って、そのため学校に多くの車が迎えに来ています。

○福井委員

どのようにして、みんなの宿題を解決、学ぶということにつながっていくかが必要だと思います。本来であれば、デイは宿題を見るところではないのですが、見ざるを得ない状況になっています。

○大森議長

宿題を見てくれるサポーターの人が必要とのことですか。

○福井委員

デイでは専門の方と言っても、精神福祉とか保育士さんなどで、教育とは違う分野の人たちが、親から見てくれと頼まれるから、こどもさんの宿題を見られています、専門外ですけど、皆さん一生懸命勉強されて。

○大森議長

宿題等を教える人が欲しいということですか。

○福井委員

欲しいのではなくて、何ていうか、障がいを持っている子と持っていない子と、学ぶ場所に矛盾が生じるというか、何ていうか、うまく伝えられなくて申し訳ないですが。

○大森議長

一緒に、学校のほうでもっと宿題を見てほしいということですか。

○福井委員

デイ側からすると、そう言いたいのだと思いますが、先生たち忙しいし、時間がな

いから、それは無理だろうと思っておられるのだと思います。

○大森議長

先ほど言われていた学習支援サポーター等などを強化すれば、それは可能なんですか。

○谷塚校長

支援の方はやっぱりデイに行かないといけないところもあります。

○福井委員

そうですね。

○谷塚校長

もしそういう仕組みが2学期からでも作れたら、残ってもらって30分でも1時間でも勉強して帰ってもらえればと思いますけど、残るのは難しいですよ。

○福井委員

難しいです。

○谷塚校長

デイの取組があるので。

○福井委員

時間の枠が契約であり、個人個人でどういう利用の仕方をしているかなど、学校の事情と調整していかないといけないので。

○大森議長

今回は、そういう課題があるということを提起してくださったのですね。

○福井委員

そうですね。

○箱谷副議長

瓜破小学校もお迎えに来る車、多いですね。でも、人によったらデイに行く前に、いきいきに行って、そこでお勉強を30分ぐらいして、それからお迎えに来ていただ

いている人もいます。だから、授業終わってすぐにお迎えに来るのではなくて、30分ぐらい残って宿題をされたら。学校の先生の手は足りないので、いきいきであれば可能かとも思います。

○福井委員

利用の仕方もあるということですね。

○箱谷副議長

いいかなと思います。

○福井委員

ありがとうございます。

○稲垣委員

いきいきも人員が足りていないところがあると思うんですよね、学校によって。

○箱谷副議長

そうですか。

○稲垣委員

募集しているところは結構見ますので、やっぱりいきいきに来ていただける方が。

○箱谷副議長

少ない。

○稲垣委員

そういうところが結構あるので。

○箱谷副議長

人材が。

○稲垣委員

こどもがたくさん集まってくるので、目が行き届かなかったら大変との思いがあるかもしれない。

○広岡校長

よろしいですか。

○大森議長

はい。

○広岡校長

今の宿題の話をお聞きして、我々自身も考え直さないといけないと思いました。どうしても宿題というのはみんな同じ質で同じ量という考えが、私自身も含め学校にはありました。しかし、一人一人子どもたちは課題が違いますし、特性をそれぞれ持っています。これからの時代、今本当に個別最適な学びというのが一つキーワードになっていますので、そのことを考えたら、本来であれば、一人一人、あなたは今日はこれね、あなたは今日はこれねっという形で課題を出すのが一番の理想形だと思います。ただ、そうすると、ここでも話題になっていますように、教員の働き方改革という点ではなかなか厳しいものがあります。

それでも、本当に一人一人子どもたちをしっかりと、今、このこどもに何をさせなければいけないのかっていうことを考えて、宿題を出すという視点はとても大事だと思います。ついつい、みんなに同じもの、同じ量を出さなければいけないっていうのが、そういう教員も正直いています。でも、今はそういう時代ではないと思いますし、同じ量を出すことが何も平等、公平ではないと感じます。ありがとうございました。

○大森議長

なかなか難しい課題ですね、それは。

○広岡校長

そうですね。ただ、今、本当に1人1台端末、タブレットも配付されていますので、そうしたツールを活用すれば、そういうことも可能かなとも思います。

○大森議長

それはどうすれば可能なのですか。

○広岡校長

タブレットの中にはドリルみたいなものがたくさん入っていますので、あなたは今日はここね、あなたはここねっていう感じでやればいけるのかな。いや、それを言えば、教員から、そんな時間、校長先生、どこにあるのですかと言われそうですけども、でも、少なくとも、宿題、課題を出すことは必要であって、それは日々教員には話しています。何のために宿題を出すのかっていうことをしっかり考えくださいということです。

○大森議長

一番今、日本の、令和の中で言われている教育課題ですよ。こどもに合ったものを、しかも共通してということと言われるわけですけど、こどもにしたら一律同じものにしてくれという要求もあるでしょうね。僕だけ違うとなります、多い少ないもありますよね。

○広岡校長

それはあります。でも、私も昔担任していたときに、周りの子が、何々君ずるい、宿題していない、あいつ遊んでいる、先生、怒って、とよく言われたのですけども、宿題をやっていないからずるいという発想は違うよ、別にあなたは損していないでしょうという話はしていました。宿題を単にしてこないのか、できない事情があるのかなどは、こどもたち一人一人の家庭環境などの事情もありますので、一律には言えません。

○大森議長

校長先生のような、そういう一つの教育理念っていいですか、こどもをどう見るか、宿題、学力をどう見るかっていうことが、もっと社会として論議されていく必要があるでしょうね。学校現場だけでも恐らく今、校長先生の言われたことは共通理解できているかという、難しいかもしれないですよ、まして、社会では。それぞれのこどもが違うんだと、その子に応じた教育をしましょうと言いながら、なかなかそうはならない、片方では、非常に競争が多い状況もありますからね。本当に校長先生の言

われた理念を私も大事にしたいと思います。

また、先ほど言われていた、学力支援サポーターとか、そういうのも私、常盤会学園大学で保育、教育を目指す学生を養成、育てていますけれど、学力支援サポーターでも、上原さんとも連絡を取らせてもらったことがありますよね。

○上原担当係長

はい。ありがとうございます。

○大森議長

結局行かなかったと思うのですけど。

○上原担当係長

そうですね。学生の活動できる時間が学校と合わず残念でした。

○大森議長

もっとスムーズにそこまでできるようにしたいとは思いますが。私たちは、いきいきのほうも、わざわざ大阪市から来てくださって、連絡者の方と一緒に連絡を取り、チラシも学生総数、全体に配って、進めるようにはしています。支援サポーターはもちろん、こどもと関わるデイサービスなども、学生に行ってほしいと思っています。ただ、言われていたように、学生って今はもう大変なのですよ。寝てしまう子を起こしたら、昨日11時、12時までアルバイトしていたという暮らしをしていたりします。でも、私たちは全力を挙げてこどもと関わるアルバイトをなささいということは勧めていますので、これからも声をかけていきたいですし、区役所のほうでもスムーズにつなげていただけたらと思います。大学も一緒に頑張ります。

それから、先ほど箱谷さん、もう一つ言われていました。授業をしている教室のクーラーはありますが、特別室のクーラーはないんですかということでしたね。

○武市区長

担当は教育委員会事務局の施設の部署ではありますが、お聞きしている話では、今、小学校の理科室を順番につけていくとのこと。市内の小学校だけで、300弱あ

ります。中学校の体育館にクーラーがついたので、小学校の体育館にもつかないのかを聞いたら、取りあえず理科室を順番にとの回答でしたので、小学校の体育館はすぐにはつかない感じです。

○箱谷副議長

中学校の理科室はつかないのですか。

○谷塚校長

本校は既についています。

○箱谷副議長

それも順番ですか。

○谷塚校長

だと思います。

○武市区長

一度には難しいと思います。中学校も120以上ありますので。校舎の建て替えなどで動くこともありますが、おおむね順番にだと思います。

○広岡校長

小学校は1学期に、特別教室の空調整備に向けての調査がありました、教育委員会事務局の方から。ただ、具体的にいつからつけますとの説明はなく、取りあえず調査だけでした。

○箱谷副議長

大きい道路に面する学校の教室は全部ついていきますよね。

○武市区長

暑さ対策ではなく、防音の関係でですね。

○箱谷副議長

そうそうそうそう。

○武市区長

飛行機が通るルートの下の小学校とかは全教室ついていたりします。

○広岡校長

高速道路とかも。

○武市区長

そうですね。おそらく国庫補助など、予算の出どころが多少違うこともあると思いますね。

○箱谷副議長

しんどくなる子も出ています、授業中に暑過ぎて。できるだけ早くつけてあげていただきたい。

ごめんなさい。校長戦略予算とかありますでしょう。校長先生にそれで作れないのですかとお聞きしたらそれは使えないと言われました。何で駄目なのですか。

○広岡校長

現場としては買いたいのはやまやまですが、用途に縛りがあり、施設整備に係るものは駄目と言われています。スポットクーラーなどは可能かもしれませんが、スポットクーラーではこの暑さはしのげませんので。

○武市区長

関係部署に要望についてはお伝えいたします。

○箱谷副議長

お願いします。

○大森議長

本当にすごい暑さですからね。小学校は夏休みに学校にこどもが来られるのですか。

○広岡校長

以前は、例えば夏休み、7月いっぱいプール開放をしていました。水泳の特別練習とかも含めて。学校によっては図書館開放とか、あとは、家庭で勉強が難しい子のために、サマースクールもありました。今本校で取り組んでるのは、学習面での支援、

サマースクールだけです。プールは、熱中症のリスクが高いため、水泳学習はできないという日が本校でも1回ありました。水温と気温を足して、一定の温度を越えると水泳学習も禁止となっております。

○大森議長

でも、サマー学習だけでも進めていただけたら。それはすごく保護者としてはありがたいです。ぜひ。

○広岡校長

ただ、それも朝早くから開催しないと昼間はまた熱中症のリスクがありますので、できるかぎり朝早く呼んで、午前中に帰宅させるということを行っています。

○大森議長

働き方改革の課題もあるでしょうしね。いろいろな課題が今日、出されたかなと思います。

以上で意見や質問等出されたかと思います。よろしいでしょうか。

それでは、区役所のほうにお返しいたします。

○上原担当係長

事務連絡になります。別添で「教育会議委員一覧」と「教育会議委員の要綱」をお渡ししております。皆様の任期は令和5年9月で終了になります。2年間本当にありがとうございました。また、稲垣委員、箱谷委員、福井委員は任期4年ご協力いただきました。本委員は最大で任期4年となりますので、次回からは新委員になります。また、PTA協議会さんの、橋本委員、芳崎委員におかれましては、PTA協議会は基本1期2年で交代されとお聞きしております。大阪ロータリークラブ様も、次回から、今回傍聴していただきました加賀様が委員に替わられるとお聞きしております。この会議が終わりましたら、皆様の団体さま宛に推薦通知を送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○武市区長

退任される委員の皆様方、本当にありがとうございました。いろんなご意見いただいて、本当に区役所としても助かった思いでございます。もしできれば、お一言ずつ退任に当たってお言葉いただければと思います。

○上原担当係長

それでは、福井委員からお願いします。

○福井委員

私は区政会議からお世話になって、教育会議と続けて・・・何年？

○上原担当係長

8年になります。

○福井委員

8年、どうもありがとうございました。あんまりよく分かってないのに、いろんなところで情報集めてきては皆さんにご提供するという形でしたけども、まだまだ未熟で、これからますます平野区が発展していくことを望んでいます。どうもありがとうございました。

○稲垣委員

4年間この会議に参加させていただきましたが、コロナ禍で何度か中止にもなるなど残念なところもありました。いつもここに出て、いろんなお話聞かせてもらって、こんなこともあるなど、私の意見も言いたいなと思いながら終わってしまうというのが常々でして、あと、帰ってから、あれも言えばよかった、これも言えばよかったということが出てくるのですが、次回に来たらそれは忘れてしまっています。非常に申し訳なかったなと思っています。あまりお力になれなかったと思うのですが、私の後任者はしっかりやってくれると思います。よろしく願いしておきます。

○箱谷副議長

4年間ありがとうございました。本当こういう場において発言するのが苦手で、今日やっと何かしゃべれたなと思ったら、もう今日で終わりなので、何かほっとしています。

本当にありがとうございました。

○橋本委員

私も1期2年間、委員させていただきましたありがとうございました。PTA会長として、単位では7年、区Pでも何年かしましたが、分からないことばかりで、教育では様々な取り組みをされていることを、学べたと思います。学校に帰ってもこんなことやっていると伝えていますが、なかなか協力していただける保護者も少ないですし、せめて単位の役員とかでも協力していただけたらなというふうに伝えることはできたのかなと思います。また、新しい委員も来るとしますので、どうぞよろしくお願いします。

○眞田委員

平野ロータリークラブから社会奉仕委員長として2年間携わっていました。区民まつりでの小・中学生を対象にした絵画展なども行いました。絵画を募集して、表彰される喜びなどを子どもたちに感じて欲しい。これからも青少年の活動には携わっていますので、これからも続けて協力していきたいと思いますので、よろしくお願いします。また後任の加賀が次からは参加するので、よろしくお願いします。

○武市区長

本当にありがとうございました。

○樋口政策推進課長

大森議長、箱谷副議長におかれましては、議事進行にご協力いただきまして本当にありがとうございました。

では、最後に、区長から一言ご挨拶申しあげます。

○武市区長

退任された委員の皆様方、ありがとうございました。また、新しい体制になりますけれども、これからも皆様方からいただいたご意見を踏まえ頑張って進めてまいりますので、退任された方も区政だよりなどを隅から隅まで読んでいただいて、また区政

にも興味を持っていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○樋口政策推進課長

本日は、様々な貴重なご意見いただきましてありがとうございました。今後とも平野区の教育施策にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

これをもちまして、平野区教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。